

## Ⅳ 農業の経営形態の分類

## (1) 自給的農牧業

- ・焼畑 (熱帯林の伐採 ⇒ 火入れ ⇒ 栽培 ⇒ 地力の低下に伴う移動) )
- ・遊牧 (乾燥地域 = ラクダ・羊・山羊 極地周辺 = トナカイ チベット = ヤク) )
- ・オアシス農業 (乾燥地域で灌漑用水が得られるところ 小麦・ナツメヤシ・綿花) )
- ・アジア式稲作 (年降水量 1000mm 以上 モンスーンの発達する沿岸部) )
- ・アジア式畑作 (降水量 1000mm 未満 内陸・高緯度地域) )

## (2) 商業的農牧業

- ・混合農業 (飼料作物・食用穀物・野菜の輪作 + 家畜の肥育) )
- ・酪農 (冷涼な気候・痩せた土壌...乳牛の飼育による乳製品・酪製品の生産) )
- ・園芸農業 (都市近郊地域での野菜・果物・花卉の集約的生産) )
- ・地中海式農業 (夏 = 乾燥 ⇒ 果樹栽培・放牧 冬 = 乾燥 ⇒ 小麦栽培) )

\* 古代 = 二圃式

中世 = 三圃式

近代 = 混合農業

- ・輪作 ... 連作障害の防止
- ・休耕地 ... 地力の回復 (従来の休耕地を野菜畑・牧草地に転用)

## (3) 企業的農牧業

- ・企業的穀物農業 (北米中央平原・ラプラタ川流域 = 黒色土の分布 年降水量 500mm) )
- ・企業的牧畜業 (年降水量 500mm 未満の半乾燥地域 肉牛・羊) )
- ・プランテーション農業 (熱帯～亜熱帯の沿岸部 輸出用の商品作物栽培) )

(1) 火山島と珊瑚礁

\* 太平洋における火山島と珊瑚礁の分布 = 北西～南東に分布

- ・ 火山島の形成 = ホットスポット
- ・ 太平洋プレートが移動 = 火山活動の停止
- ・ 珊瑚礁の形成 = 火山島の周囲に発生 (裾礁⇒堡礁⇒環礁)

(2) 小島嶼国の経済活動

\* 移民の出稼ぎ・先進国からの経済支援㉔

↑

- ・ 国土面積㉑ = 農用地・資源埋蔵㉓ → 国内の経済開発が遅延
- ・ 領土が点在 = インフラの整備が困難

(3) 領海と排他的経済水域の違い

\* 基線 = 最大干潮線

・ 基線～12海里 = 領海

沿岸国の主権が及ぶ水域 領土・領空とともに国家領域の一つ

・ 基線～200海里 = 排他的経済水域

国連海洋法に基づいて設定される、天然資源及び自然的エネルギーに関する主権的権利、人工島・施設の設置、環境保護・保全、海洋科学調査に関する管轄権が及ぶ水域

(4) 小笠原諸島の年降水量が少ない理由

\* 小笠原諸島 (父島) = 1293mm 同緯度

南西諸島 (那覇) = 2041mm

|       | 夏季                 | 降水量 |
|-------|--------------------|-----|
| 小笠原諸島 | 太平洋高気圧 (小笠原気団) の影響 | ㉑   |
| 南西諸島  | 梅雨前線・熱帯低気圧の影響      | ㉓   |

問 B (1) 資料判定 (農産物自給率)

| 国   | 品目      | 自給率     | 判定   |
|-----|---------|---------|------|
| (イ) | 米・小麦・肉類 | 高 企業的経営 | アメリカ |
| (ロ) | 小麦<米    | アジア式稲作  | タイ   |
| (ハ) | 小麦・いも類  | 低 自給的経営 | 中国   |

問 B (2) トルコ 自給率の高い背景

- ・地中海沿岸～エーゲ海沿岸＝果物・野菜類
- ・黒海沿岸＝ナッツ類
- ・アナトリア高原＝穀物
- ・南東部＝綿花

|                 |   |                      |     |
|-----------------|---|----------------------|-----|
| ・ <b>トルコ帝国</b>  | ⇒ | <b>トルコ共和国</b> (1923) | } = |
| * イスタンプール       |   | * <u>食糧安全保障を重視</u>   |     |
| 交通の要衝           |   | 完全自給体制の確立            |     |
| 経済活動＝容易         |   |                      |     |
| <b>封建的土地所有制</b> |   |                      |     |

(直轄州・独立採算州・  
従属国・属国・君侯国)

問 B (3) メキシコの農業

\* 自給率＝ (低) 米・小麦 ＝穀物栽培 (不足分＝輸入)  
(高) 野菜・果実＝園芸農業 (余剰分＝輸出)

1994年 NAFTA 締結 (アメリカ合衆国・カナダ・メキシコ)

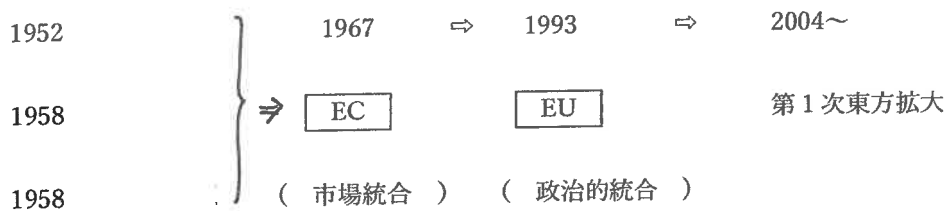
アメリカ・カナダ＝**企業的穀物農業** ( )  
\*

メキシコ＝ **園芸農業** ( )  
\* レモン・ライム・オレンジ・アボカド

I 先進国の食糧問題・農業政策 (例) ヨーロッパ

(1) 経済統合の進行

|    |                 |   |                |
|----|-----------------|---|----------------|
| 背景 | ・人口減少と経済力の低下    | ⇔ | 人口転換(少子高齢化)    |
|    | ・冷戦下の政治的影響力の低下  | ⇔ | アメリカ・ソ連の台頭     |
|    | ・市場統合による貿易の量的拡大 | ⇔ | 市場規模の拡大=経済力の維持 |



\* 欧州石炭鉄鋼共同体・欧州経済共同体・欧州原子力共同体の統合 = **欧州共同体**

(2) 共通農業政策(1962~) \* 単一市場形成のための初期段階の政策

| 目的      | 方法    | 政策 |
|---------|-------|----|
| 市場統合    | 関税撤廃  |    |
| 域内優先    | 域外輸入品 |    |
| 農業構造の改善 | 資金援助  |    |

(3) 問題点

|        |   |     |   |
|--------|---|-----|---|
| 共通農業政策 | ⇒ | 問題点 |   |
| 統一価格制度 | ⇒ | (   | ) |
| 課徴金制度  | ⇒ | (   | ) |

\* 現状 = ( )

\* 慢性的な飢餓・貧困（例）アフリカ諸国

(1) 背景

| 時代    | 社会   | 農業  | 生産面                        |
|-------|--|---|----------------------------|
| 戦前    | <b>植民地</b><br>・ 政治的主権を持たない<br>宗主国の属領       | <b>プランテーション農業</b><br>欧米資本による単一作物の<br>大規模農園                  | <b>商品作物 &gt; 自給作物</b><br>↓ |
| 戦後    | <b>独立</b><br>・ 政治的主権の回復<br>・<br>・          | <b>プランテーション農業</b><br>独立後の主力産業<br>国営・現地人経営の増加<br>* 他産業の開発の遅延 | <b>モノカルチャー経済</b>           |
| 1960~ | <b>人口爆発</b><br>多産多死から<br>多産少死への<br>人口転換が進行 | <b>緑の革命</b><br>農業の技術革新<br>多収穫品種の栽培<br>灌漑の整備・土壌改良            | <b>自給作物の栽培を重視</b>          |

(2) 緑の革命の評価

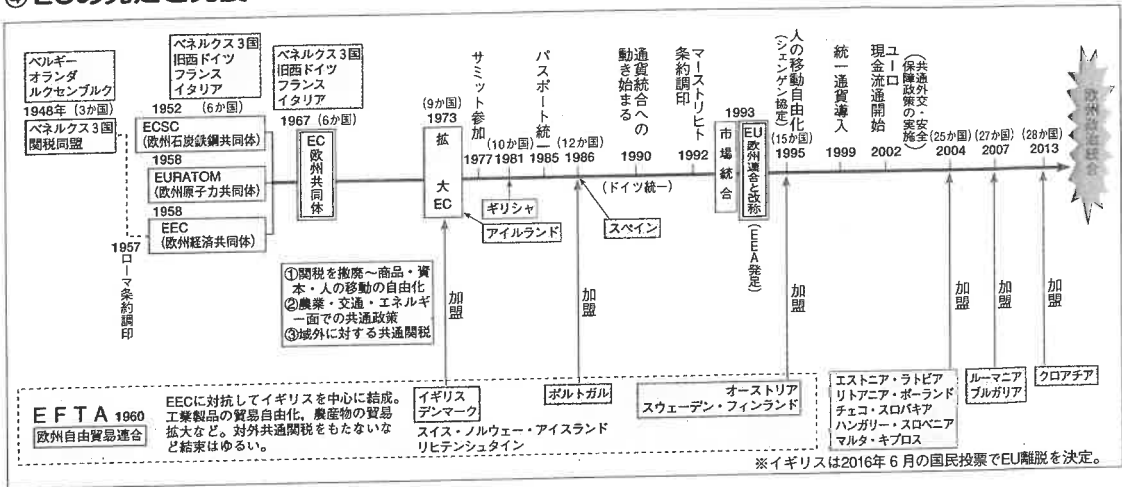
- ・ ⊕面 = 食糧自給率の上昇（余剰分の輸出可）
- ・ ⊖面 =  
 （ 改革に対応できた富農とできなかった貧農の経済格差の拡大 ）

(3) その他の技術革新 @インド（新興国 BRICs）

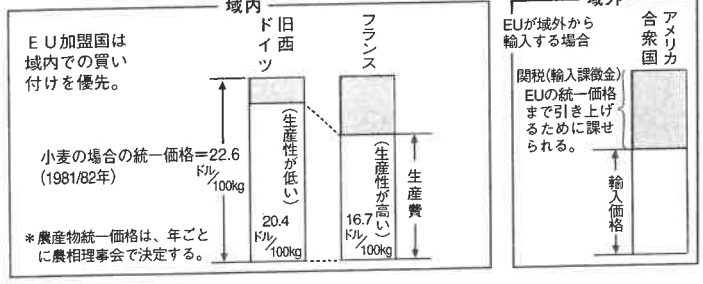
- ・ **白い革命** = 生乳の生産と流通機構の整備
- ・ **ピンクの革命** = 鶏肉の生産と消費の増加

\* **背景** = }

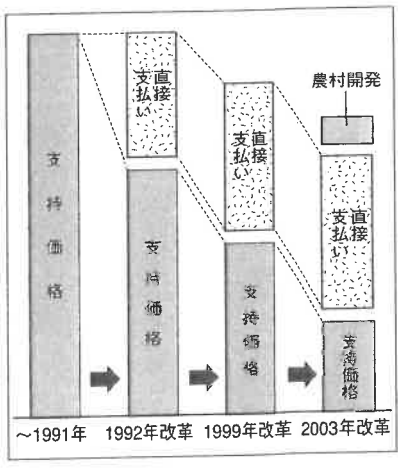
④ EUの発足と発展



⑤ EUの共通農業政策 (小麦の場合)



⑥ 共通農業政策の改革の変遷



**▲ 過剰生産と問題点**

- 買い支えに依存した需給無視の過剰生産が行われるが、生産性の高い国ほど受益金が大きい。
- 過剰生産物を輸出するときは、国際価格まで引き下げるために莫大な赤字となる。

⑦ ヨーロッパの内陸水路

